重度重複化と多様化に対応するアシスティブ･テクノロジーの活用と評価

平成21. 22年度「特別支援教育総合研究所との研究パートナー」

○研究目標

コンピュータなどコミュニケーションツールを利用することで本人の自己選択の幅を広げＱＯＬを高める

○対象児童

・小学部２年生
・脊髄性筋萎縮症
・知的障害は認めない
・両眼球とわずかであるが右手首（尺屈）と四指の第一関節を随意的に動かせる

○入学までの取組

・視線によるコミュニケーションボードを使った取組
・携帯用会話補助装置のレッツ・チャットにエアバッグセンサースイッチをつなぎ一点操作式で文字入力する取組

○研究での取組

・使用スイッチ
　棒スイッチ
　エアバッグセンサースイッチ

・使用機器等
　携帯型扇風機
　シャボン玉自動製造器
　吠える犬の人形
　携帯用会話補助装置
　（レッツ・チャット）

○実施計画

(1) スイッチの検証
・眼球の動きなど生体スイッチを使ってコンピュータを動かしてコミュニケーションする

(2) 自作教材の作成と活用
・コンピュータにつないだスイッチを一点入力することでページめくりし、自分の力で童話を楽しむ

(3) コンピュータゲームの活用
・障害者用一点入力走査方式のゲームを利用しコンピュータゲームを楽しめる

(4) テレビ視聴
・テレビのリモコンに接続し、スイッチで番組や音量の設定をして日常生活の中で利用する

(5) 電子メール
・コンピュータをインターネットに接続し、ワープロで作成した日記を通して両親とのコミュニケーションをとる

(6) 音声によるコミュニケーション
・補助機能（VOCA）を利用し、一点走査選択による音声を生活の中で利用する

○使用機器等の紹介

携帯型扇風機

メロディーマイク

楽器演奏：鉄琴

くす玉割り

ハンドベル

電子絵本

コミュニケーションボード